
金の妻

とが・みきた

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

金の妻

【Nコード】

N5629V

【作者名】

とが・みきた

【あらすじ】

ある日、きこりの老夫婦が木を切っていたところ、妻があやまって湖に落ち、沈んでしまいました。夫が嘆き悲しんでいると、女神さまが水面から現れ……

ある日、湖のほとりできこりの老夫婦が木を切っていました、妻がバランスをくずして水の中に落ちてしまいました。

あわてて駆けつけた夫の助けも間に合わず、彼女は深みへと沈んでいってしまったのです。

彼は大泣きに泣きました。すると、どこからともなく神々しい声が聞こえてきました。

「おまえは、なぜ泣いておるのか」

老人は、妻がおぼれ死んでしまったことを伝えました。

すると、水面が波立ち、女神さまがひとりの娘を連れて浮かび上がってこられました。

そして、

「おまえの妻はこの女か」

と、お聞きになります。

「いいえ、違います。そんなに若くてきれいな女ではありません」

男が答えると、

「そうか」

と、返事されて消えて行かれました。

そして、こんど姿を見せられたときは、こぎれいな、いかにも人妻といった色気あふれる女がいつしよでした。

「では、おまえの妻はこの女か」

彼は、ふたたび首を振りました。

女神さまは、またまた姿を隠されました。

三度目に出現されたときは、彼の妻を従えておられました。

「その女が女房でございます。お助けくださってありがとうございます」

彼は、涙を流し喜びました。

「おまえは正直なやつだ。年寄りには若い女ばかり追い求めるのに、

糟糠の妻を忘れず、よくぞ申した。それでは、三人ともすべてくれてやる。持ってけ」

「へ？」

ということで、男は三人を連れて家に戻ってきました。

この話を聞いた隣家の欲張りじいさんは、妻を湖まで連れて行くと、後ろからどんと突いて水中へ落としてしまいました。

「すぐに神さんが助けあげてくれるから、ちよつとの間がまんしろ」無責任なことを言って、彼はたばこに火をつけ一服していました。すると、やはり女神さまがやってこられました。

見ると、若くきれいな女を連れていきます。

男は、神さまの言葉を待ちきれず、

「そ、そ、その女が、わ、わしの女房でござえます。ありがとうございます」

と、かけ寄ろうとしました。

すると女神さまは一喝、

「この大うそつきめ。お前のようなやつに妻を持つ資格はない。本当の妻も、もつといいところへ連れて行ってやるわ」

と言うなり消えてしまわれました。

男はがっくりして帰ってきました。

正直男は、その日以来、三人の妻を養わなければならないうえに、ひとりにやさしくすると他の者からやきもちを焼かれ、夜はそれぞれが、男がだれかの部屋に忍んでいかないかずつと監視しているとこの息苦しいありさま。そして、長い間こき使われやせ細ったあげく、長生きはしたものの大していい思いもせずこの世を去りました。一方、うそつき男は、当初飯炊きや洗濯など家事をするのにも困りましたが、やがて慣れてしまい、これまでのように甲斐性なしなどとののしられることもなく、毎晩酒を飲みながら気楽に一生を過ごせたということです。

人間何が幸せになるかわかりませんね。

(おしまい)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5629v/>

金の妻

2011年10月5日21時18分発行